

第2回

稲築中学校区小中一体型校施設整備協議会

資料

平成30年10月25日

1-1

稲築西小学校の施設の現状

1-1-1 建物配置

(1) 建物配置

稲築西小学校の校舎は、鉄筋コンクリート造2階建の建物が開放廊下によって結ばれた、片廊下(一文字型)の平面形状である。特別教室棟が正面配置の特徴がある。

体育館は、南側配置である。プールは、グラウンドとレベル差東側配置である。グラウンドは、稲築中学校と隣接する南側配置である。

(2) アプローチ

敷地東側の道路からは緩やかな登り傾斜のアプローチがあり、桜並木を通り抜け東側中央の明るい正面玄関と昇降口に導かれる。

(3) 学校まわりの現状

敷地東側敷地内通路とプール周辺は、高木(常緑)と石積囲障の明るい環境である。敷地南側は、グラウンドを境界に稲築中敷地と 3m 程度の高低差がある。敷地西側は、既存コンクリート擁壁とフェンスに囲まれている。敷地北側は住宅地に隣接し、通用門は、登下校時のみ開放。

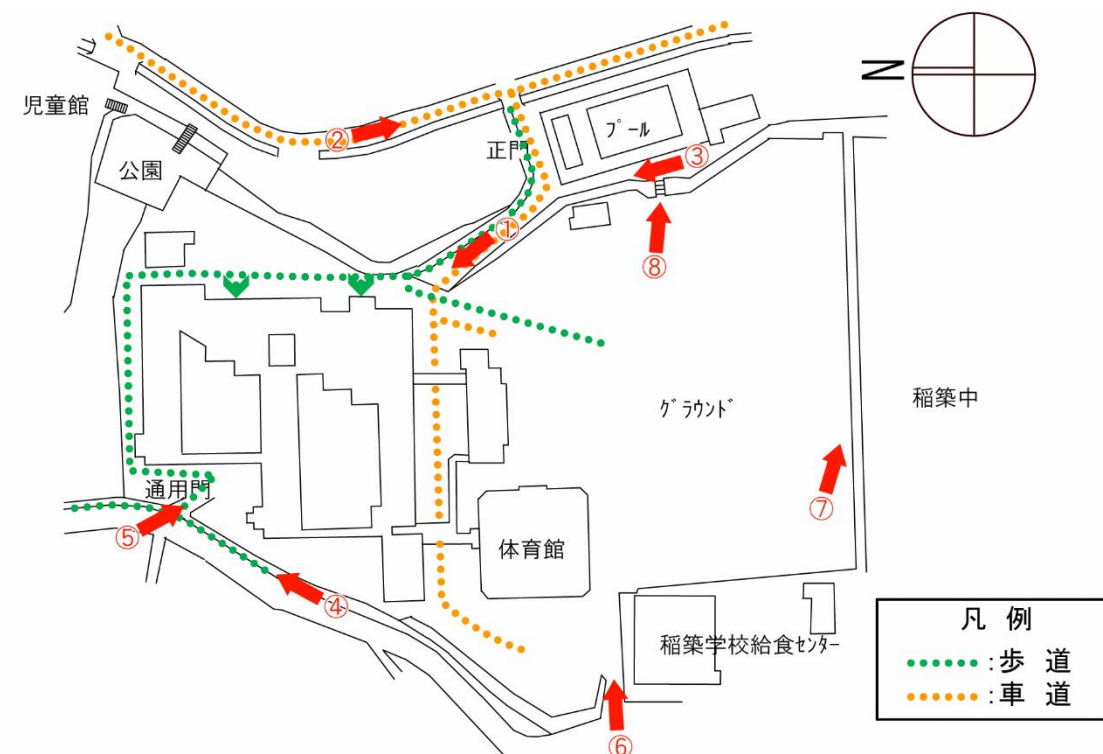


図 1-1-1 敷地の周辺環境



① 東側敷地内通路
正門にアプローチする明るい入口



② 北東側通学路と水路
標識「30 速度制限」



③ 東側プールと既存擁壁
高木(常緑)の囲障



④ 西側既存コンクリート擁壁

⑤ 北側通用門
校舎に隣接する、登下校時のみ開放



⑥ 西側敷地内通路、給食センター擁壁
駐車場にアプローチする車両用入口

⑦ 稲築中学校との境界
3m 程度の高低差

⑧ 南側角遊具スペースよりプールへの階段

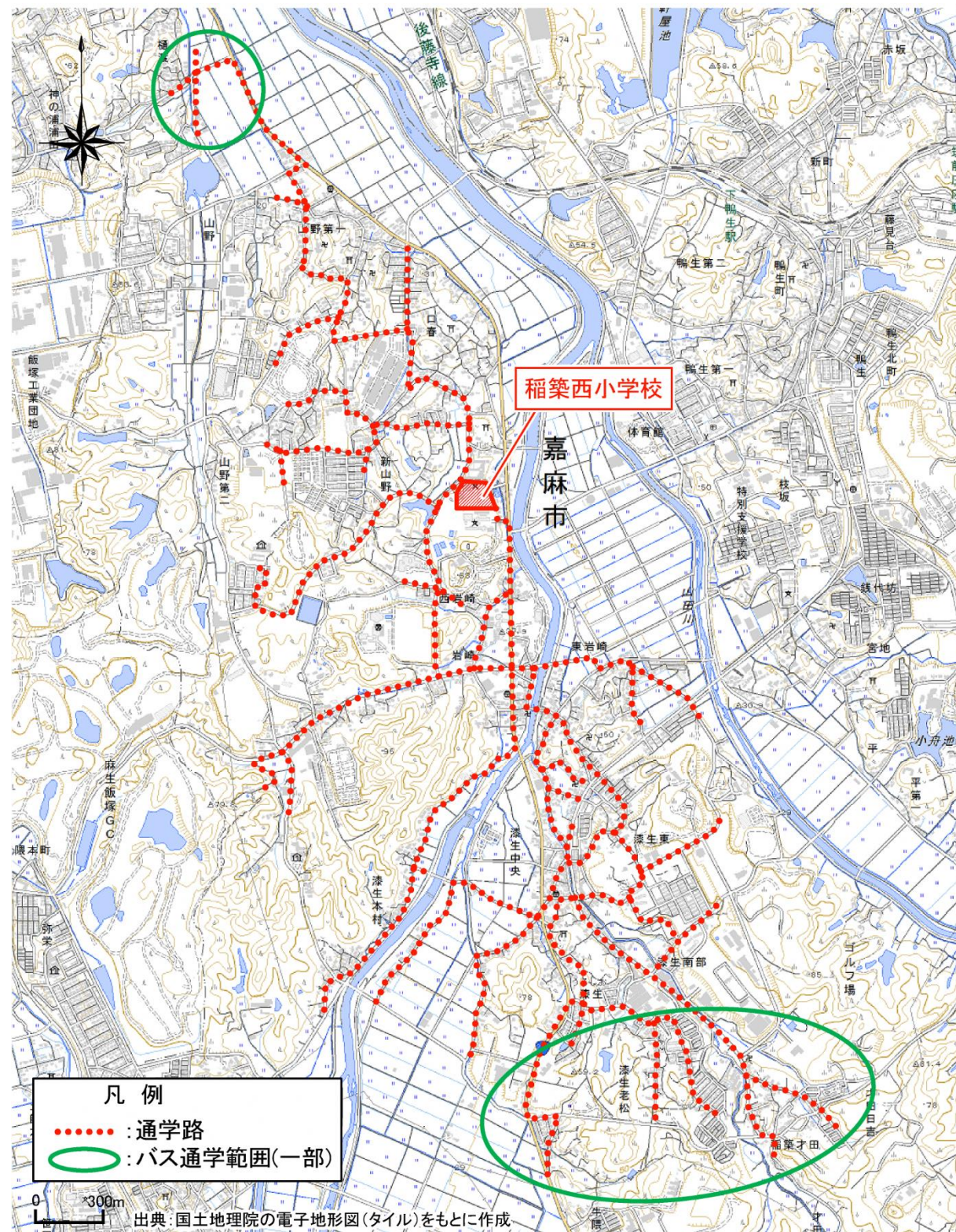


図 1-1-2 指定通学路

1-1-2 通学路

(1) 通学路

通学路は多くが稲築西小学校の南北側に沿っており、川沿いの自然景観や開けた眺望を楽しみながら登校することが可能となっている。また、校区の北部と南部の一部はバス通学区域となっている。児童の学校敷地への進入は既設の東側正門と北側通用門が適している。

1-1-3 稲築西小学校敷地

メリット	・敷地面積は約 28,000 m²。(稲築中学校敷地を含むと約 58,000 m²。) ・現学校敷地であるため、経済的負担がなく早期着工が可能である。 ・通学路の変更に大きな影響がない。 ・高台に位置し、防災拠点としての機能を有している。 ・子どもたちにとって馴染みのある場所で、移転に伴う精神的不安が軽減される。 ・校区のほぼ中心に位置している。
デメリット	・運動場に校舎を建設する場合は運動場の利用が出来ないため、代替地の検討が必要になる。 ・現校舎の場所に建設する場合は仮設校舎が必要となる。 ・建設時に児童の安全面や教育活動への影響が懸念される。
対応策	・安全かつ教育活動への影響を最小限に抑えるローリング計画を立てる。

1-2-1 建物配置

(1) 建物配置

稲築中学校の校舎は、鉄筋コンクリート造3階建の建物が開放廊下によって結ばれた、片廊下(一文字型)の平面形状である。

体育館は中央配置。武道場は東側配置。プールは西側配置の分散配置である。

グラウンドは西側配置であり、200mトラックを確保できる。

(2) アプローチ

敷地東側の稲築中前交差点(現在工事中)からは緩やかな登り傾斜の広いアプローチがあり、遊歩道を通り抜け東側中央の正面玄関と昇降口に導かれる。

(3) 学校まわりの現状

敷地南側は、稲築公園や旧稲築プールが隣接し、学校プールには間知石積擁壁が隣接している。東側正門からのアプローチは、隣地住宅地が連続する。敷地北側は、稲築西小学校グラウンドに隣接し3m程度の高低差がある。

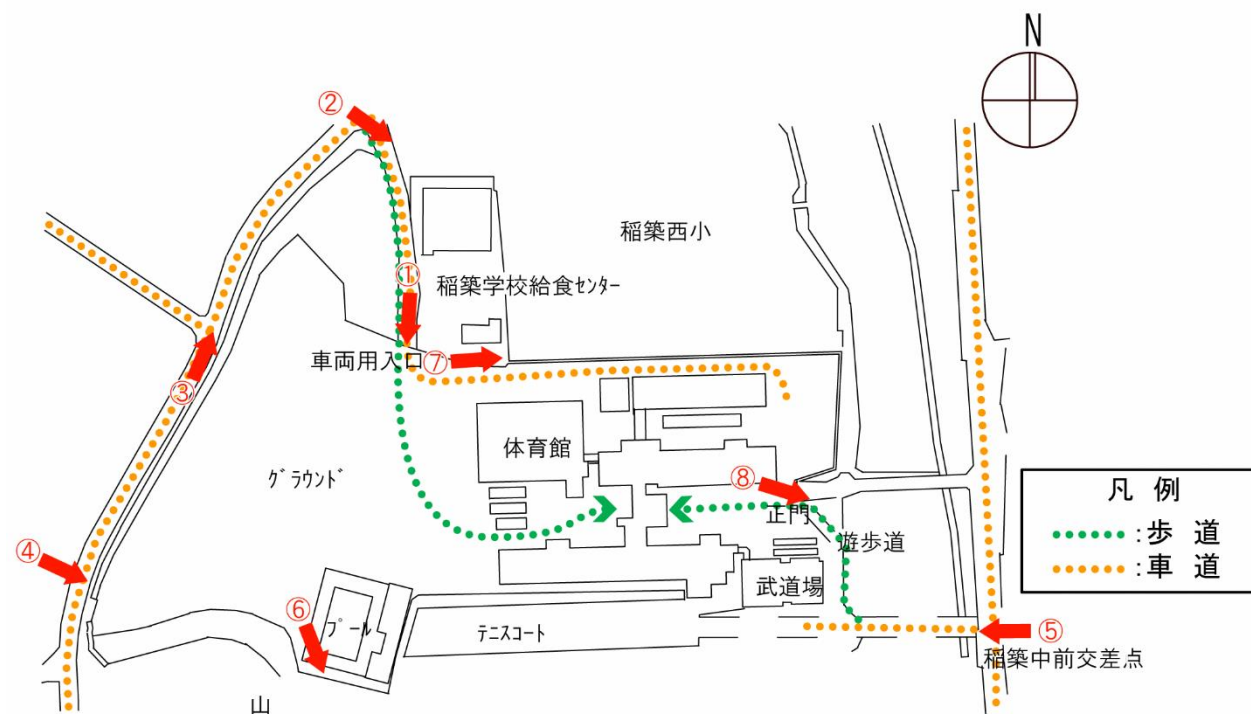


図 1-2-1 敷地の周辺環境



① 北側敷地内通路
学校給食センター、グラウンドにアプローチする車両用入口



② 北西側道路より車両用入口
稲築西小学校が見える



③ 西側既存擁壁と防球ネット
雑草管理しにくい高さ



④ 南西側角既存擁壁、高低差 1m 程度
入口を新設可能な高さ



⑤ 稲築中前交差点(工事中)より
柔剣道へのアプローチ
通学路より正門へ続く



⑥ 南側プールに隣接する間知石積擁壁



⑦ 稲築西小学校との境界
3m 程度の高低差



⑧ 東側正門と高木(常緑)
稲築中前交差点より敷地内通路隣接

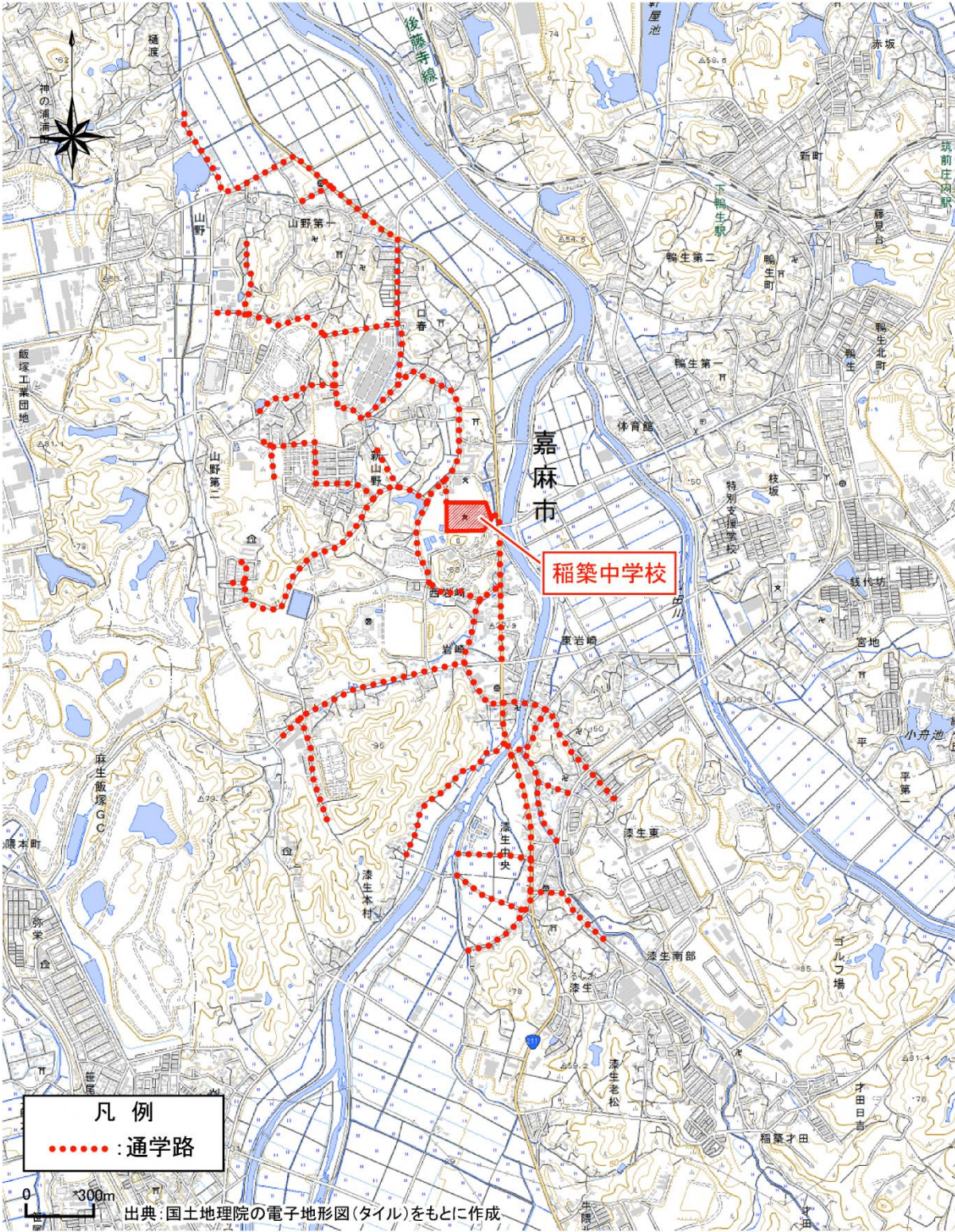


図 1-2-2 指定通学路

1-2-2 通学路

(1) 通学路

通学路は多くが稲築中学校の南北側に沿っており、川沿いの自然景観や開けた眺望を楽しみながら登校することが可能となっている。生徒の学校敷地への進入は、稲築中前交差点(工事中)経由既設東側正門と北側車両用入口が適している。

1-2-3 稲築中学校敷地

メリット	・敷地面積は約 30,000 m²。 (・稲築西小学校を含む敷地面積は約 58,000 m²。) ・現学校敷地であるため、経済的負担がなく早期着工が可能である。 ・通学路の変更に大きな影響がない。 ・高台に位置し、防災拠点としての機能を有している。 ・子どもたちにとって馴染みのある場所で、移転に伴う精神的不安が軽減される。 ・校区のほぼ中心に位置している。
デメリット	・運動場に校舎を建設する場合は運動場の利用が出来ないため、代替地の検討が必要になる。 ・現校舎の場所に建設する場合は仮設校舎が必要となる。 ・建設時に生徒の安全面や教育活動への影響が懸念される。
対応策	・安全かつ教育活動への影響を最小限に抑えるローリング計画を立てる。

稲築西小学校敷地と稲築中学校敷地の比較について

□ 稲築西小学校敷地と稲築中学校敷地の比較について
稲築西小学校敷地と稲築中学校敷地の下記3項目比較を示します。

比 較 項 目	稲 築 西 小 学 校 敷 地	稲 築 中 学 校 敷 地	稲 築 西 小 学 校 敷 地 稲 築 中 学 校 敷 地
敷 地 面 積	約28,000㎡	約30,000㎡	約58,000㎡
安 全 性	○ 高台に位置し、防災拠点としての機能を有している。	○ 高台に位置し、防災拠点としての機能を有している。	○ 高台に位置し、防災拠点としての機能を有している。
計画候補地としての適正	△	△	○ 両敷地を一体的に活用。

稲築中学校区の現敷地内での改築について

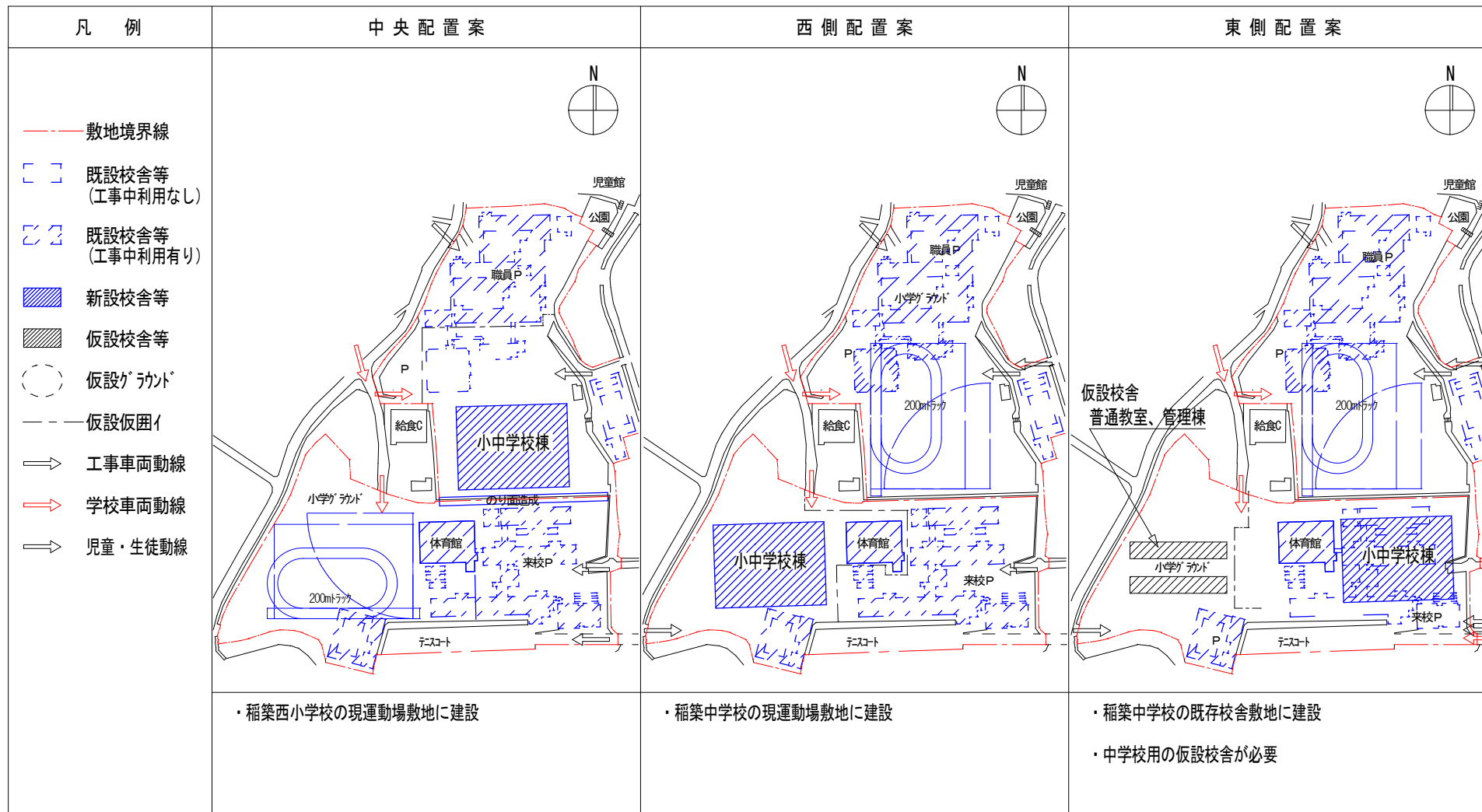
[資料 5]

- 目的
改築の際、現況の敷地内において改築可能であるかの検討をする。

- 稲築西小学校、稲築中学校の概要
敷地面積 約58,000m² (稲築西小学校、稲築中学校)
住 所 嘉麻市口春615、629他
施設概要
稲築西小 校舎延べ面積 6,045m²
現況児童数 477名 学級数 23学級
稲築中 校舎延べ面積 4,882m²
現況生徒数 274名 学級数 12学級

施設概要 新設校舎 3階建て
体育館+武道場 1階建て
新設校舎延べ面積 (計画) 約10,500m²程度
新設後学級数 普通学級 27学級
特支学級 10学級

- その他 (法条件)
・用途地域 都市計画区域内 (区域区分非設定)
・防火地域 指定なし
・容積率 200%
・建ぺい率 70%



* 敷地下敷き図面は、施設台帳のトレース図の為縮尺等に差異があります。